



補習校だより

平成24年度 第18号

平成24年9月8日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

校長携帯 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail hoshuko@bellsouth.net

生活の見直しを

校長 永井 晋

補習校での子どもたちの生活をもう一度考えてみました。補習校というところは非常に珍しいところです。アメリカにありながら英語が禁止の日本語のみの環境です。子どもたちの学校は現地校であり、補習校に通うことは義務ではありません。普通は休みである土曜日に開校している。補習校の運営は先生だけではなく、保護者が大きく関わっている。挙げればきりがありません。では、なぜお子さんを補習校に通わせるのでしょうか。それは、日本語での教育や日本の文化、習慣等を学ばせたいからではないでしょうか。

では、日本で当たり前に行われている生活指導（生徒指導）も補習校でもしっかり行う必要があるのではないのでしょうか。私は、長年生活指導に関わってきました。生活指導主任も何年もやりました。生活指導とはいったいなんでしょう。文字通り子どもたちの生活に関する指導を行うことが目的です。言葉遣いに始まり、遅刻や早退の決まり、昼休みの遊び方、教室での過ごし方、校内での過ごし方、上級生、下級生の関係、態度や登下校、はたまた夏休みの過ごし方まで事細かく決まりがあります。それは、将来社会に出たときに子どもたちが困らないように決められています。学校とは我慢を覚える場所でもあるのです。

補習校の子どもたちはどうでしょう。少し自分の生活に甘さがみられるように私は感じます。授業中に先生にきちんと丁寧な言葉使いをしていますか。そうではない子どもの多い事。先々週私は朝礼で、子どもたちに夏休み前に補習校ではこんな問題があったので今後注意するように話をしました。また、同時に問題だと思ふ場面を見たら教えてくれるようにもお願いしました。更に、先週の朝礼では遅刻についての話をしました。しかし、先週の補習校では、弁当に持ってきたと思われるみかんの皮が2階の北側の人からは見えない廊下の隅に捨ててありました。ごく一部の子どもがしたことです。しかし、日本でもごく一部のしたことが「〇〇中学校の生徒は・・・」とまるで全体の子どものように言われてしまうのです。補習校の中でならよいのでしょうか。そんなことはありません。ルールはルールです。改善されることを願います。これを機会に全員でもう一度大きな意味での生活の見直しを図ってみてはいかがでしょうか。少々厳しいことを書いたかもしれませんが、是非ご家庭でも話題になさってください。



(学年交流の様子)



(学年交流の様子)